

2023 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 理事会議事録

日時:2023 年 11 月 8 日(水) 15 時 00 分~16 時 30 分

場所:別府国際コンベンションセンター(B-CON PLAZA) B1F リハーサル室

出席者:伊藤真人(理事長)、安達のほか、片岡祐子、肥沼悟郎、近藤康人、阪本浩一、鈴木雅明、田中 学、田中康広、中川尚志、原 浩貴、深美 悟、保富宗城、増田佐和子、益田 慎、丸山裕美子、宮入 烈、吉原重美(理事)、小林一女、望月博之(監事)、飯野ゆき子、市村恵一(顧問)、有本友季子、香山智佳子、小森 学(幹事)、齋藤康一郎、仲野敦子、守本倫子、吉川 衛(アドバイザー)、穂吉亮平(学術(国内)委員会委員長)、二藤隆春(学術誌編集委員会委員長)、任 智美(ダイバーシティ推進委員会委員長)、原真理子(第 18 回学会総会・学術講演会年次幹事)、竹内万彦(第 19 回学会総会・学術講演会会長)、小林正佳(第 19 回学会総会・学術講演会年次幹事)、土橋奈々(APOG2023 年次幹事)、早坂駿吾(事務局)

伊藤真人理事長挨拶

本理事会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人には片岡祐子理事と益田慎理事が指名された。本理事会開催にあたっての挨拶として理事会出席者および守本倫子会長への謝辞が述べられた。

守本倫子会長挨拶

第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

I. 報告事項

1. 庶務(丸山理事)

特に報告事項なし。

2. 会計(増田理事)

2023 年 7 月 31 日~8 月 4 日にオンラインにて開催された評議員会で承認された、2022 年度決算と 2023 年度予算を提示した上で、学会会計がタイトな状況にあることが報告された。また、2022 年度の会費納入率は 93.7%ではあるが引き続き納入率向上に努めていくこと、学会誌のオンラインジャーナル化により広告収入が見込めなくなること、学会誌がオンラインジャーナル化をしたとしても経費削減にはあまりつながらないことについても、併せて報告された。なお、広告収入が見込めなくなることに對して補う方法として、賛助会員制度の活用をしていくことについて提案された。

本件につき、齋藤康一郎アドバイザーより、学会誌のオンラインジャーナル化の後も広告収入を維持していく方法に関する日本気管食道科学会の資料の提供が可能である旨の意見をいただいた。

3. 学術誌編集(安達理事)

学会誌の発行について、2022年度は43巻1号、2号、3号を発行したこと、編集委員会の開催について、2022年度は2022年8月4日に開催したこと、44巻3号の発刊は2024年3月にずれ込むこと、2024年の45巻よりオンラインジャーナル化されることにつき、それぞれ報告された。

なお、44巻3号の発刊が2024年3月にずれ込む理由は、1)本年度の第18回学会総会・学術講演会開催が11月となり掲載論文数が少ないため、2)45巻よりオンラインジャーナル化されることに伴い旧形式の投稿論文を全て掲載するため、の2点であることが説明された。

また、2024年の45巻よりオンラインジャーナル化されることに伴い、1号は毎年6月発刊、2号は毎年12月発刊、総会・学術講演会抄録集は紙印刷の補巻とし、発刊は総会・学術講演会の1カ月前頃、となることも併せて説明された。

なお、2023年度～2025年度までの編集委員会のメンバーについても併せて報告された。

4. ホームページ広報(益田理事)

学会ホームページについて、コンテンツの追加で5,000円、ページの追加で10,000円の費用が発生することから、更新の都度、理事会メールリングリストで理事の了承を経てから進める予定であることが報告された。

また、今年度(2023年度)の更新計画として、内容が「歴代会長とテーマ」のページと類似している「過去の学術集会」のページを削除する予定であること、学会誌のオンラインジャーナル化に伴い更新する予定であること、第18回学会総会・学術講演会の講演動画をアップロードする予定であること、一般の方向けコンテンツにおける「サメちゃん動画(鼻血・魚骨異物)」の更新および「偉い人に訊く:耳鼻科医と小児科医に論文を紹介」の新設をする予定であることも併せて報告された。

5. 会員教育(代:伊藤理事長)

特に報告事項なし。

6. 保険医療(鈴木理事)

委員として3名の先生方を選任したが、委員長の選任については引き続き検討を進めていくことが報告された。

7. 会則改定(代:伊藤理事長)

特に報告事項なし。会則改定案について、審議事項にて取り上げる旨、案内された。

8. 学術(国際)(中川理事)

第18回学会総会・学術講演会と共同開催となる第9回アジア小児耳鼻咽喉科学会(APOG2023)を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

また、日本における小児耳鼻咽喉科の活動をまとめたBulletinを榎尾明憲委員長と相談をしながら作成を進めること、IPOGより「医原性の挿管による子供の外傷の評

価と回避」および「鰓性嚢胞の治療と分類」につき、小児耳鼻咽喉科、麻酔科、救命救急科からの委員の選出依頼があったことについて、併せて報告された。

9. 学術(国内)(田中〔康〕理事)

委員のメンバーについて報告された。

10. ダイバーシティ推進(片岡理事)

来年(2024年)開催予定の第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会にてダイバーシティ推進委員会からの企画セミナーの開催を計画していること、現在の本学会における男女比や専門分野や年代等を調査の上、ダイバーシティ推進の方向性を検討していく計画であることについて報告された。

11. 企画推進(小児睡眠時無呼吸症領域)(原理事)

昨年(2022年)の第17回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会期中に「日本小児呼吸器学会との合同シンポジウム:小児OSA診療の現状と課題」を開催したが、その診療の手引きを、2024年1月頃から、日本口腔・咽頭科学会と協力しながら作成を進めていく予定であること、これに伴い委員の選定を予定していること、2025年開催予定の第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の開催までにある程度原稿を作成し報告を行う方向で計画していることが、それぞれ報告された。

12. 企画推進(小児感染症領域)(宮入理事)

第18回学会総会・学術講演会会期中の2023年11月10日に、「第1回小児科耳鼻咽喉科合同感染症セミナー—今問われる診療科連携の重要性—」を開催することが報告された。

13. 企画推進(小児アレルギー領域)(近藤理事)

昨年(2022年)10月～11月に実施した、「小児アレルギー性鼻炎診療実態調査アンケート」の結果の一部を、第18回学会総会・学術講演会では一般演題にて、第60回日本小児アレルギー学会学術大会(2023年11月18日～19日開催)ではシンポジウムにて、それぞれ公表することが報告された。

また、「小児アレルギー性鼻炎診療の手引き」について、2024年春の発刊を目指し、日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会主導で日本鼻科学会と本学会と共同で作成を進めていることが報告された。

14. 専門医制度WG(田中〔康〕理事)

当初、本学会において小児難聴の相談医の制度設定を検討していたが、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会主導で、日本耳科学会や日本聴覚医学会と連携して進めることになり、そのキックオフミーティングが第33回日本耳科学会総会・学術講演会(2023年11月1日～4日開催)会期中に開催されたことが報告された。

15. ペガサス基金選考(代:伊藤理事長)

学術(国際)委員会および学術(国内)委員会より委員を選出したことが報告された。

16. その他

16-1. メール審議報告・情報配信報告(伊藤理事長)

前回理事会(2023年7月4日 Zoomにて開催)以降のメール審議の内容および情報配信の内容が報告された。

16-2. 第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(竹内次期会長)

第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況が報告された。

16-3. 第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(原次々期会長)

第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況が報告された。

II. 審議事項

1. 評議員の任期満了時の継続意思の確認および評議員の評議員会への参加について(丸山理事)

会則第14条4.にて「評議員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない」と規定されているが、評議員会へ出席されていない評議員がおられることから、任期満了が近づいた際に継続の意思について確認を行うこと、および、評議員の責務として任期の3年間のうち少なくとも1回の評議員会への出席を求めることについて審議された。

本件につき、伊藤真人理事長より、ご意見があれば学会終了後2~3週間以内に事務局までお問い合わせいただくよう案内され、引き続き、検討を継続していくこととなった。

2. 新評議員・新幹事・次期年次幹事の推薦の件(丸山理事)

小森 学先生(聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科)、澤田正一先生(さわだ耳鼻咽喉科・眼科(高知県))、高野賢一先生(札幌医科大学耳鼻咽喉科)、津川二郎先生(高槻病院小児外科)、藤野明浩先生(慶應義塾大学小児外科)、松島康二先生(東邦大学医療センター大森病院耳鼻咽喉科)、森田由香先生(富山大学耳鼻咽喉科)、米倉修二先生(千葉大学耳鼻咽喉・頭頸部外科)が評議員として推薦され、評議員会で審議されることになった。なお、幹事の小森 学先生が評議員に推薦されたことに伴い、鈴木法臣先生(国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科)が幹事として推薦され、承認された。

また、年次幹事に小林正佳先生(三重大学耳鼻咽喉・頭頸部外科)が推薦され、承認された。

3. 会則改定の件(深美理事)

現在の会則第 11 条 2. にて、「理事長, 理事, 監事の任期は 3 年とし, 連続の場合は 2 期 6 年までとする。」と規定されているが、これに「なお, 理事退任後の監事の任期はこの限りではない」を加えること、また、同第 19 条 2. にて、「理事会においては理事長が議長となり, 本会の事業の遂行に必要な事項を審議決定し, 実施する。」と規定されているが、これに「ただし, 理事長が欠席の場合には, 理事の代表が議長の職務を代行する」を加えることにつき審議され、承認された。

4. バナー広告規程の件(深美理事)

バナー広告規程を運用している他学会の規程を参考に、本学会のバナー広告規程案を作成したことが報告された。

本件につき、伊藤真人理事長より、ご意見があれば学会終了後 2~3 週間以内に事務局までお問い合わせいただくよう案内され、引き続き、検討を継続していくこととなった。

5. 第 21 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長推薦(伊藤理事長)

第 21 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長に獨協医科大学埼玉医療センター耳鼻咽喉・頭頸部外科の田中康広主任教授が推薦され、承認された。

Ⅲ. その他

1. 副理事長制度の導入の件

飯野ゆき子顧問より副理事長制度の導入の提案があった。これを受け、伊藤真人理事長のもと、1)副理事長は、耳鼻咽喉科の理事より 1 名、小児科の理事より 1 名の計 2 名とする、2)任命は理事長が行う、3)理事長の職務を代行するにあたっての順序は、耳鼻咽喉科の副理事長、小児科の副理事長の順番とすること、の 3 点につき審議され、承認された。

2. インボイス制度の対応の件

齋藤康一郎アドバイザーより、適格請求書等保存方式(インボイス制度)の対応について意見をいただいた。具体的には、既に、企業よりインボイス制度に対応した領収書を求められる事案が発生している学会があり、現在は免税事業者である本学会も、課税事業者になり登録番号を発行の上、対応できるようにしておくことが望ましいという意見をいただいた。本件、学会内で検討を進めることとなった。

以上

理事長: 伊藤真人
庶務担当: 丸山裕美子
庶務アドバイザー: 仲野敦子
守本倫子
幹事: 有本友季子
小森 学
(文責) 香山智佳子